

## 国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF) について International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields (INWEPF)

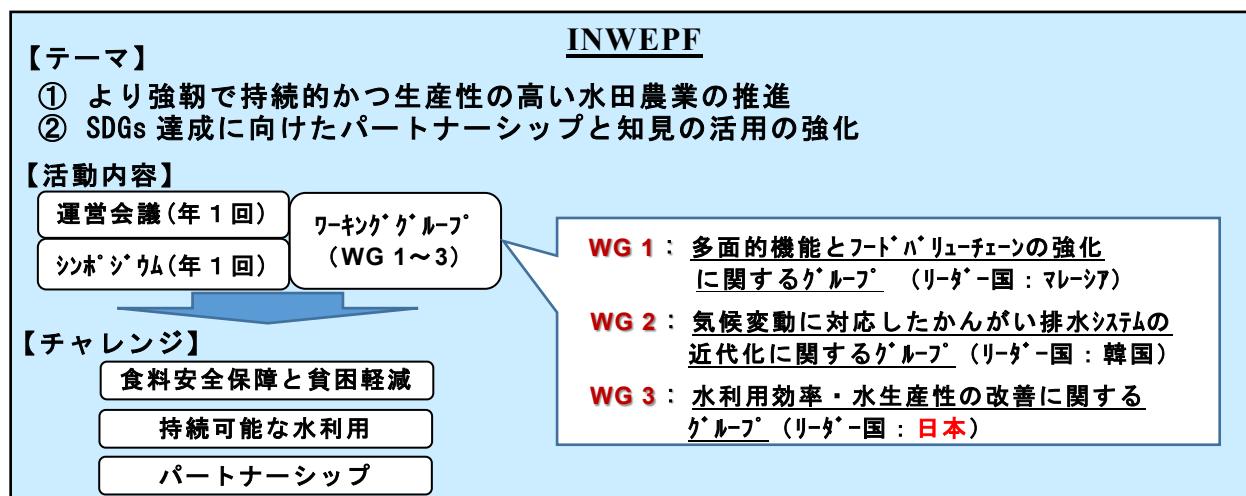
高野伸、○藤本敏樹、明瀬一真  
Shin Takano, ○Toshiki Fujimoto, Kazuma Akase

### 1 国際水田・水環境ネットワークの概要

2003年3月、農林水産省は、国連食糧農業機関 (FAO) と共に、第3回世界水フォーラム (京都) の一環として、世界各国の農業担当大臣が参加する「水と食と農」大臣会議を開催した。同会議では3つの挑戦「食料安全保障と貧困軽減」、「持続可能な水利用」及び「パートナーシップ」を掲げた大臣勧告が採択された。

2004年11月、これら3つのチャレンジの達成に向け、日本（農林水産省）を中心となり、アジア・モンスーン地域を中心に水田農業を実施している国<sup>1</sup>及び国際機関が参加する「国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF)」を創設した。INWEPFは、水田農業に関わる政府関係者等が、知識と経験を共有し、水田農業発展のために国際的な議論を行うフォーラムである。INWEPFの活動は大きく、①技術的・政策的な講演を行う「シンポジウム」、②概ね年1回開催して活動方針等を決める「運営会議」、③各テーマに沿って作業・議論を行う「ワーキンググループ (WG)」の3つにより構成される。

我が国はこれまで、世界水フォーラム等の関連国際会議での情報発信を念頭に、WGの活動を通じた成果づくりをリードしてきた。WGの戦略（テーマ）は、その時節における国際的な課題に合致するように幾度か改編がなされている。現在の第7フェーズ戦略では、図に示すように、我が国はWG3のリーダー国として、水利用効率・水生産性の向上を考慮した政策・技術についての議論を進めている。



<sup>1</sup> 2024年末現在、19か国がINWEPFメンバー国：バングラデシュ、カンボジア、中国、エジプト、インド、インドネシア、イタリア、日本、ケニア、韓国、ラオス、マレーシア、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、ベトナム  
農林水産省農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室

## 2 第19回INWEPP運営会議及びシンポジウムの開催

2024年12月12日から14日に、タイ・パタヤで第19回INWEPP運営会議及びシンポジウムが開催され、10か国<sup>2</sup>と国際機関（FAO、メコン河委員会（MRC）、国際水管理研究所（IWMI））の代表者が参加した。

### （1）運営会議の概要

ア 世界水フォーラムを活動の区切りとして策定しているINWEPPフェーズ戦略について、INWEPP参加国からの意見を踏まえた第7フェーズ戦略（2024-2027）等を日本から提案し、合意された。また、2025年9月にマレーシアで開催される国際かんがい排水委員会（ICID）第4回世界かんがいフォーラムにおいて、INWEPP主催のサイドイベントを開催することについても合意された。

イ イタリアとケニアのINWEPPへの新規加盟について合意された。

ウ 日本から、次の第20回運営会議及びシンポジウムを11月に滋賀県で開催することを提案し、合意された。

### （2）ワーキンググループ（WG）会議の概要

日本はWG3のリーダー国として、松野近畿大学教授が議長を務め、松下滋賀大学教授及び乃田東京大学准教授が、水田農業における付加価値の高い水管理や多面的な水利用に関する取組を紹介するなど、水田の水利用効率に関する議論を主導した他、ネパール、スリランカ、エジプト、イタリア、タイが取組事例等を発表した。WG1、WG2では、日本における水田農業の多面的機能や気候変動対策への取組等について知見を共有した。

### （3）シンポジウムの概要

「カーボンニュートラルを達成するための革新的な水田農業の促進」をテーマとしたシンポジウムでは、Marco ICID会長に続き、渡邊ICID名誉副会長（京都大学名誉教授）が「カーボンニュートラルのための水田におけるかんがい排水管理」に係る基調講演を行った後、エジプト、インド、韓国、スリランカ、タイ、国際協力機構、農研機構、日本水土総合研究所が、間断かんがい（AWD）等の水田からの温室効果ガス排出量を削減する技術等について、取組事例や研究成果を発表した。

## 3 今後の主なINWEPP活動予定

2025年11月12日から14日に、滋賀県（大津市）で、第20回INWEPP運営会議及びシンポジウムを開催する予定である。INWEPP設立の契機となった「水と食と農」大臣会議が開催された大津市で節目の第20回会議を開催することで、INWEPPの歴史・活動を振り返り、今後目指すべき姿の共通認識を持つ最良な機会となることが期待される。

農村振興局では、水田農業の持続的な発展に向け、ヨーロッパ、アフリカ等の国々に参加国が広がっているINWEPPの活動を引き続きリードし、水田農業国との連携強化を進め、2027年にサウジアラビアで開催予定の第11回世界水フォーラム等の国際会議において、学識経験者のご支援を頂きながら、必要な情報発信を行っていく。

<sup>2</sup> エジプト、インド、イタリア、日本、韓国、マレーシア、ネパール、フィリピン、スリランカ、タイ